

PAT-NO: JP408055174A

DOCUMENT-IDENTIFIER: JP 08055174 A

TITLE: ACCOUNTING AND MEDICINE PROVIDING METHOD
UTILIZING
COMPUTER

PUBN-DATE: February 27, 1996

INVENTOR-INFORMATION:
NAME
TORISU, NOBUO

ASSIGNEE-INFORMATION:
NAME
TORISU NOBUO

COUNTRY
N/A

APPL-NO: JP06216484

APPL-DATE: August 8, 1994

INT-CL (IPC): G06F019/00, G06F017/60

ABSTRACT:

PURPOSE: To eliminate the need for the labor for circumferential operation and to prevent side effects due to the combinational use of medicines by generating materials required for accounting and a pharmacist's office at the same time with doctor's input.

CONSTITUTION: When a patient 1 hands a consultation ticket and an insurance certificate to a reception desk 2, they are sent to the doctor 3 together with the medical history register of the patient 1. After a medical treatment, the doctor 3 inputs the number of a medicine to be taken to a display where the data of the consultation ticket are displayed through a reader, corrects the

name, standard taken amount, number of taking days of the medicine which are displayed supplementarily at need, and sends them together to a host computer 4 after confirmation. The host computer 4 supplements and totalizes medical rewards, quantities and unit prices by medicines, etc., and stores materials required for application to health insurance institutions. At the same time, a requested amount of money which is calculated by content details and the agreements of insurance is printed out on an account and receipt form, and a taken medicine list containing the names of medicines and the number of days is printed out for the pharmacist's office 6 and doctor 3.

COPYRIGHT: (C)1996,JPO

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平8-55174

(43) 公開日 平成8年(1996)2月27日

(51) Int.Cl.⁶

識別記号

庁内整理番号

F I

技術表示箇所

G 0 6 F 19/00
17/60

G 0 6 F 15/ 42 M
15/ 21 3 6 0

審査請求 未請求 請求項の数 3 書面 (全 3 頁)

(21) 出願番号 特願平6-216484

(22) 出願日 平成6年(1994)8月8日

(71) 出願人 592242833

鳥巢 信夫

千葉県船橋市前原東3-35-1

(72) 発明者 鳥巢 信夫

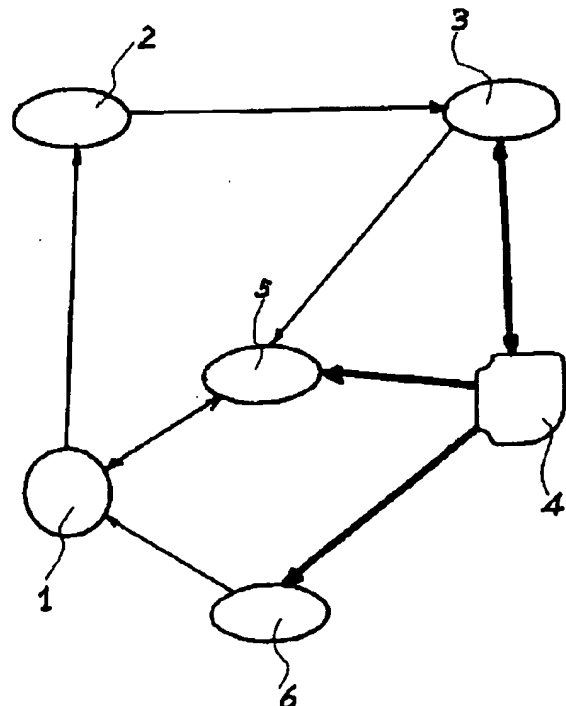
千葉県船橋市前原東3-35-1

(54) 【発明の名称】 電算機を用いた会計及び供薬方法

(57) 【要約】

【目的】 医療機関での、患者の待ち時間をなくし、医師の疲労を軽くして診療を捗らせ、人手を減らす。

【構成】 医師3はディスプレイに、服用を指示する薬の番号を入れて、補足表示される薬名と服用量などを確認してから、ホストコンピューター4に送ると、瞬時に、会計5には患者への請求金額が、薬局6と医師3には服用薬リストが打ち出される。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 医師が診療時に、患者の健康保険などのデータをディスプレイに表示し、次いで服用薬の番号を入れ、補足表示される薬名や標準服用量や日数などを示す服用薬リストを確認したのち、一括してホストコンピュータに送ると、そこで診療報酬や薬の単価等が補足され集計されて、保険機関への請求に必要な資料として蓄積され、次いで会計の請求書兼領収書用紙には、健康保険の規約等に従って計算された患者への請求金額が打ち出され、同時に医師と薬局にはそれぞれ、薬名と服用日量と供薬日数等を表示した服用薬リストが打ち出されるごとくした、電算機を用いた会計及び供薬方法。

【請求項2】 薬に番号を付け、薬相互の副作用を番号相互の異常としてホストコンピュータに記憶させ、自動的に医師に警告するごとくした請求項1記載の電算機を用いた会計及び供薬方法用。

【請求項3】 医師宛の服用服リストを支障の無い限りの小字で詰めて印字する請求項1記載の電算機を用いた会計及び供薬方法。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【産業上の利用分野】本発明は、医療機関での患者への電算機を用いた会計及び供薬方法に関する。

【0002】

【従来の技術】従来の医療機関での会計及び供薬方法は、患者の病歴簿が会計に来てから、計算して請求金額を請求書兼領収書用紙に打ち出し、患者を呼び出して精算し、供薬する方法である。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】従来の会計及び供薬は、それぞれ一ステップづつ遅れてスタートするので、待ち時間が長く患者は疲労し、医師は服用服リスト等の手書き量が多いので疲労して診療が捗らず、会計での計算やプリント作業をはじめ、周辺業務に多くの人手を要するなどの問題点があった。

【0004】本発明は、患者の待ち時間を無くして疲労を防ぎ、医師の手書きを最小限に減らして診療を捗らせ、周辺業務の人手を減らすことを目的としている。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本発明の電算機を用いた会計及び供薬方法においては、医師が診療時に、患者の健康保険などのデータをディスプレイに表示し、次いで、服用薬の番号を入れ、補足表示される薬名や標準服用量や日数などを示す服用薬リストを確認したのち、一括してホストコンピュータに送ると、そこで診療報酬や薬の単価等が補足され集計されて、保険機関への請求に必要な資料として蓄積され、次いで会計の請求書兼領収書用紙には、健康保険の規約等に従って計算された患者への請求金額が打ち出され、同時に医師と薬局にはそれぞれ薬名と服用日量や供

薬日数等を表示した服用薬リストが打ち出されるごとくしたものである。

【0006】薬に番号を付け、薬相互の副作用を番号相互の異常としてホストコンピュータに記憶させ、自動的に医師に警告するようにすると容易に予防できる。

【0007】医師宛の服用服リストを支障の無い限りの小字で詰めて印字すると服用服リストを病歴簿に貼るのに好都合である。

【0008】

10 【作用】上記のように構成された電算機を用いた会計及び供薬方法においては、医師がディスプレイに薬番号を入れるだけで薬名や標準服用量や日数が補足表示され、確認してホストコンピュータに送れば、瞬時に、会計には患者への請求金額が打ち出され、同時に医師と薬局には服用薬リストがそれぞれ打ち出される。

【0009】そして、会計では患者への精算業務が、薬局では薬の収集業務が、それぞれ同時に開始可能となる。

【0010】

20 【実施例】実施例について図面を参照して説明すると、図1において、患者1が診察券と保険証を受付2に提出すると、患者の病歴簿と共に医師3におくられる。医師3は診療が済むと、診察券の氏名、年齢、保険種類、本人か否かなどのデータを読取機を通して表示したディスプレイに、服用さす薬の番号を入れ、補足表示される薬の名称や標準服用日量や日数などを、必要なら修正し、確認した上で、一括してホストコンピュータ4に送る。ホストコンピュータ4内では診療報酬や薬ごとの数量、単価などが補足され、集計されて、保険機関への請求に必要な資料が蓄積される。同時に会計5に備えた請求書兼領収書用紙には内容明細と保険の規約により算出された請求金額がプリントアウトされ、薬局6と医師3には薬名と服用日量と日数等を記した服用薬リストがプリントアウトされる。

【0011】薬に番号を付けることで、薬の併用による副作用発生を、番号間の異常として自動的に警告するようし、併用による副作用発生を容易に防止する。

【0012】医師にプリントアウトされるデータを支障ない限り小字で詰めて印字し、切り取って病歴簿に貼るのに好都合とする。

【0013】

【発明の効果】本発明は、以上説明したように構成されているので、以下に記載されるような効果を奏する。

【0014】医師が服用薬リストをホストコンピュータに送ると同時に、会計の請求書兼領収書用紙には請求金額がプリントアウトされ、医師と薬局には、服用薬リストがプリントアウトされ、会計での精算業務と薬局での薬の収集業務が開始されるので、患者は待つ苦痛から解放される。

50 【0015】医師は手書き作業が大幅に減り、診療がは

かどる。

【0016】医師のインプットと同時に、会計と薬局に必要な資料が出るので、周辺業務の人手が不要となる。

【0017】薬の併用に因る副作用を容易に予防できる。

【0018】院内での、各行程での呼び出しが不要となるので、騒音が減り、環境が良くなる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の電算機を用いた会計及び供薬方法を示

すブロック図である。

【符号の説明】

- 1 患者
- 2 受付
- 3 医師
- 4 ホストコンピューター
- 5 会計
- 6 薬局

【図1】

